

青木かのチャンネル

中央区議会議員



青木かのプロフィール

長崎市生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。
元テレビ局アナウンサー・通訳・英語講師。
水辺を活用した街づくりと災害対策に取り組む。
小型船舶免許1級所持。

防災の中央区モデル

～1日でも早く日常に戻るために～

今回は、能登半島地震後初の定例会ということで、予算特別委員会では、ほとんどの会派が「防災」を取り上げました。災害はいつ起きるかわからない、準備をしてし過ぎることはありません。

ただし財源は無限ではありません。自治体の位置や地形や自然環境、社会的環境によって効果的な災害対策というものがあります。例えば、中央区の場合、

地理的位置と地形から津波被害の可能性は極めて低い

地震に備えた都市基盤整備 **耐震性に優れた倒壊の危険が少ない住居**

という特徴があります。

ただし都心区ならではの弱点、住民の約95%がマンション居住者で基本的に「在宅避難」であるので、自助と共助(マンション自治会等)への負担が大きい。

そこで行政(公助)として特に生死に関わる備蓄燃料と水の確保についてはインフラが復旧するまで公助として支援体制を強化するよう引き続き取り組んでまいります。

校庭で自転車の練習が可能に



公開空地や公園での遊び場が限られている中央区では、“場所の確保”が大変です。自転車の練習もその一つ。中央区では基本的に自転車は公園に入れませんが、車道での練習は危険です。

そこで今年度、児童や保護者が自転車の練習やキャッチボールを楽しめる場所として、区立小学校の校庭を開放することが実現しました。

対象は未就学児から小学生(主に低学年)までの児童(初心者)と保護者で、小学校で行っている校庭(遊び場)開放の日時を活用します。

具体的には

- 1 月島地域**
月島第一小学校:午前
- 2 京橋地域**
明正小学校:午前
- 3 日本橋地域**
日本橋小学校:午前

目的に応じて利用区分(自転車・キャッチボール・遊び場)を設け、組み合わせて実施するということです。

詳細は区のHPを御覧下さい



また、この4月に晴海地区に開校した晴海西小学校・中学校の体育館とプールも地域に開放されます。



体育館



屋内温水プール(25m、8コース)

中央区から発信中!

Find us on
青木かの 検索

@kanoaoki
http://twitter.com/kanoaoki/

YouTube 青木かのチャンネル
https://www.youtube.com/user/kanoaoki

Blog 月島日記
https://ameblo.jp/kano-aoki/

皆様のご意見・ご要望は

青木かのオフィシャルサイト Kanoaoki.com

青木かの

または電話(090)4829-4702まで



オフィシャルHP



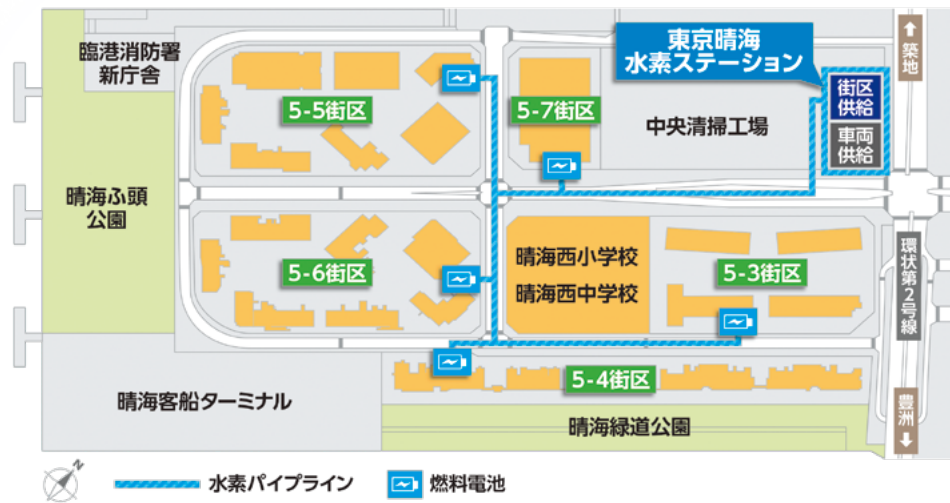
ブログ

元祖エコタウン晴海 水素エネルギーのモデルタウンへ

晴海地区は、選手村に決まる以前の2012年、中央区により「中央区エコタウン」に指定されていました。

エネルギーに関しては再生可能エネルギーとして太陽光発電、太陽熱（地熱）利用発電はすでに示されていますが、水素エネルギーについては出てきません。また交通に関してはEV（電気自動車）が中心で水素（燃料電池車）については出てきません。

では、いつから晴海は“水素エネルギーのモデルタウン”と呼ばれるようになったのでしょうか？答えは、晴海がオリパラ2020の選手村に決定し、東京都都市整備局が2016年に策定した「東京2020大会後の選手村におけるまちづくりの整備計画」にありました。



都市整備局の担当者によると、水素エネルギーは舛添都知事（当時）の肝入りだったようです。この政策の強みは、

- ①高層マンション単独ではなく街（晴海フラッグ）全体で取り組める
- ②水素ステーションが敷地内にある
- ③地中に埋設されているパイプラインを通じて各地区に設置されている燃料電池へ水素を供給できる

ということにあります。

地震等の災害で停電が起っても、水素ステーションの貯蔵水素や非常

電源を使い燃料電池を動かして発電したり、カーシェアリング用の燃料電池車から電力の供給を行うことも可能となります。



東京晴海水素ステーション



相生橋下カルガモのための浮島

葦の群生



この浮島周辺では夏になると親ガモと子ガモたちの姿がたくさん見られます。



石川島公園

～子どもたちへの環境教育に最適な水辺づくり～

令和6年度予算に「水辺環境の整備検討」として、373万3千円が計上されました。中央区は、昨年「中央区水辺環境の活用構想」を策定。これに基づき、隅田川や日本橋川、朝潮運河など都内随一の水辺空間を区民の憩いの場として活用していきます。

また子ガモの誕生から子育ての観察を通して身近な「環境教育」に役立てるよう引き続き提案してまいります。



水に親しむための石場。危険なため現在は立ち入り禁止